環境大臣　　鈴木俊一　殿
外務大臣　　川口順子　殿
沖縄県知事　稲嶺惠一　殿
石垣市長　　大濱長照　殿

尖閣諸島魚釣島の野生化ヤギの対策を求める要望書

尖閣諸島は、極めて小規模な島嶼のみからなっているにも関わらず、大陸や他の島嶼からの独立以降の歴史が南西諸島の中でも長いと言われ、温暖な海洋性亜熱帯気候のもとで人為的影響をほとんど受けることなく、特有の豊かな生態系が形成されてきた。特に哺乳類については、この諸島最大の島嶼である魚釣島に、1991 年に初記載された固有種センカクモグラや日本国内ではこの島にのみ見られるセスジネズミが分布し、系統学、生態学および生物地理学的に高い関心が持たれている。魚釣島には哺乳類以外にも多くの固有種、希少種を含む貴重な動物相、3 種 2 変種の固有植物を含む少なくとも 298 種からなる豊富な植物相が知られ、尖閣諸島、特に魚釣島が学術上極めて価値の高い生物相を有していることは明らかである。

しかし、この島では、かつて日本人が持ち込んだヤギが増殖し、現在では数百頭に及ぶまでになっている。小規模な島嶼に導入され、増殖したヤギなどの大型草食獣は、植物相に著しい採食圧を加え、踏圧などとあいまって、生物間の微妙な均衡のもとに成立する繊細な生態系に壊滅的な影響を及ぼすことが世界的に知られている。日本国内での小笠原諸島聟島群島の例を見ても明らかなように、その影響は植生の喪失による陸上生態系の崩壊から、さらには流出した土砂による付近海域の汚濁にまで及ぶものである。人工衛星画像を用いた最新の研究では、魚釣島の植生の衰退はすでにこの島のほぼ全域に及び、数箇所にヤギの食害によるものと推定される裸地が確認されている。この島の生態系を保全するにはヤギの除去が不可欠であり、現在の状況が今後も続けば、この島の貴重な生態系は著しく破壊され、センカクモグラなどをはじめとする数々の貴重な生物が遠からず絶滅を免れない。本年出版された環境省版レッドデータブックでもこの問題は重視されており、上記の小型哺乳類 2 種はいずれも絶滅危惧 IA 類に指定されている。そのため、この島の生態系の現状を上陸調査によって詳細に把握し、最終的にヤギを根絶することが必要である。

日本哺乳類学会はこれらの事態を深刻に受け止め、日本政府関係機関および関連自治体に、研究者との連携のもとにこれらの対策を行うことを強く要望する。

以　上

日本哺乳類学会 2002 年度大会
（2002 年 10 月 5 日採択）